

「みんなの水を みんなで考えよう」を開催しました



平成23年8月23日、高松市市民政策部企画課水環境対策室職員を講師に迎え、「みんなの水を みんなで考えよう」を開催しました。

前半は、「高松市持続可能な水環境の形成に関する条例」「水環境基本計画」の概要を話してくださいました。

高松市は、平成6年の異常渇水を教訓として、節水型都市づくりや水源の確保に取り組んできました。

しかし、その後も渇水の頻発や高潮・大雨による浸水被害の発生など、高松市の水を取り巻く現状は、いまだに厳しいものがあるようです。そこで「高松水環境会議」を設置、水環境に関する提言書『みんなの水を みんなで考えよう』が作られました。この提言書などに基づき定められたのが「高松市持続可能な水環境の形成に関する条例」「水環境基本計画」だそうです。

後半は、家庭でできる節水対策として、止水栓の調整による自主減圧の方法などを教わりました。

【高松市の水環境の現状・特徴】

(講座の資料より抜粋)

水環境の現状・特徴

- ★年間降水量 1,124 mm (高知市 2,627 mmの約半分程度)
- ★渇水の頻発 早明浦ダム周辺での少雨傾向、近年でも17・20・21年度に給水制限を実施
- ★水道の水源 市町合併後、香川用水(県営水道)の割合が約6割に上昇
- ★1人1日当たり水使用量 平成10年をピークに減少。用途が[家庭用]である使用量はほぼ横ばい

水環境を取り巻く現況と想定される将来の姿

- ★人口の減少・核家族化および少子・高齢化の進行
給水量の減少、給水量に占める家庭用水の割合の増大
- ★気候の変動
渇水の頻発、ゲリラ豪雨等の発生リスクの高まり
- ★都市化の進展
緑地や水辺の減少、景観や環境の悪化
- ★上下水道施設の更新・整備
高度経済成長期に整備した施設の更新
- ★東南海・南海地震発生の可能性
大規模地震の発生による断水等のおそれ
- ★水の利用と管理
水の持つ多面的価値を最大化するための検討の必要性

